第3回
越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅

報　告　書

開催期間　２０１１年8月6日（土）～8月10日（水）

御　挨　拶

第３回越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅
団　長　　澤　野　　崇

平成２３年３月１１日　我が国を襲った大きな揺れは、多くの人の人生に影響を与えました。その日は、全国の１００ｋｍ徒歩の旅団長が宮城県塩竈市に集い０泊２日の団長研修真っ最中でした。おかげさまで全員避難し無事でしたが、地元に住む関係者の多くは大きな被害を受けました。電気ガス水道が長期間止まっている中、彼らの口から発せられたのは「被災した試練や苦労にも感謝」「出きる、出きる、必ず復興する」「今こそ１００ｋｍ徒歩の旅で学んだことを実践する。」でした。

安全確保が出来ないと言う理由で開催を見送った地域が全国で５ヵ所。我々の地域も、１月の豪雪、３月の地震、更に開催直前の７月には水害と多くの災害に見舞われました。特に直前の水害後には、本番のコース自体が被災し中止すべきではないかというご意見を多数頂戴いたしました。しかし、我々実行委員会は、出来ない理由ではなく、開催出来る理由を考えていました。一番に考えたのは、安全管理です。安全確保するにはどうしたらいいのか。コースを変更した場合の対応、緊急時の対応、などなど。そして、最後は、大事なお子さまの命を預けて頂く保護者の皆様のご理解とご協力を頂くことでした。

本番中、連日の猛暑で熱中症予防に注意を払いながら、崖崩れの兆候がないかなどコースの安全にも気を配って歩いておりました。少しでも異常があったら途中で中止帰宅を常に考えておりましたが、歩行中は雨にもあたらず、コースが荒れることなく終了することが出来たことに感謝しています。

５月から毎週末に、学生スタッフ研修をして参りました。学生の数も昨年の倍になり、多くのことを任せることが出来るようになりました。基本的に、安全管理以外は口を出さず、学生達が自ら考え主体的に判断し行動するのを尊重しました。失敗もありましたが、そこから多くのことを学んだことでしょう。今後、自らの夢の実現に近づく一歩になることを期待しています。

今後も生きる力溢れる社会創造へ向けて、今出来ることを一人ひとりが自覚し、地域全体が出きる、出きる、必ず出きるの精神で行動し「地域の子どもは、地域で育てる」を目指して参ります。

結びに、越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅は、行政・医療・報道各機関、学校関係者、地元企業・団体、社会人スタッフ、十日町青年会議所メンバー、同じ志で１００ｋｍ徒歩の旅を行っている全国１００ｋｍ徒歩の旅推進協議会の仲間達、そして、参加頂いた小学生、保護者の皆様のご協力と支えがあって開催させて頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。そして、試練多き中で開催出来たことに改めて感謝いたします。

団員のみんなへ

暑い夏が終わり、皆さん元気に過ごしていますか。

時間を守って大切に使っていますか。挨拶を大きな声で言っていますか。１００ｋｍ歩く中で、沿道や車から応援してくれた人たちを覚えていますか。

足が痛くて歩くのが辛い時、はげましてくれた班の友達、リーダー、サブリーダーの事を覚えていますか。歩き終わった後のプールは気持ちよかったですよね。

初参加の皆さんは、初めて１００ｋｍ完歩で何を感じましたか。とても長い道のりでも、あきらめず一歩一歩足を前に出して進んでいけば、いつか必ずゴールに到着する事を経験しましたね。２回目、３回目の参加の皆さんは、今までの経験を生かし遅れている子どもを応援してくれましたね。団長はその姿に感動しました。今年応援してもらった人は、来年は応援する側になってください。

これから、つらい事があったときは、１００ｋｍ完歩した事を思いだして「出きる、出きる、必ず出きる」の気持ちで頑張って下さい。そして、苦しんでいる友達には「頑張ろう！」と伝えましょう。

最後に、参加させてくれた家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたかな。まだなら、今からでも大きな声で伝えて下さいね。

越後つまり100km徒歩の旅

綱領

私には素晴らしい力があります。

はてしない可能性があります。

何事にもくじけず、弱音を吐かず

「出来る、出来る、必ず出来る」の精神で、

一歩一歩、前進すれば、必ずゴールに到達する

事を知っています。

私は、多くの人たちや自然の恵みをはじめ

有形無形、様々な支えがあって生かされている

ことへ感謝します。

さらには、人生においての試練や苦労にも

感謝できる、強く、優しい人間です。

越後つまり100km徒歩の旅

心得

積極的な姿勢

謙虚な心

整理整頓

時間管理

全員参加

一日一生

参加者名簿

1班	8名			2班	8名		
氏名	学校名	学年	回数	氏名	学校名	学年	回数
渡辺（ワタナベ） 柊太朗（シュウタロウ）	十日町小学校	6	3	関口（セキグチ） 岳大（タケヒロ）	十日町小学校	6	3
村山（ムラヤマ） 拓尚（ヒロナオ）	西小学校	5	2	高橋（タカハシ） 聡司（サトシ）	橘小学校	6	2
吉野（ヨシノ） 涼二（リョウジ）	津南小学校	5	2	市川（イチカワ） 健太（ケンタ）	水沢小学校	5	2
丸山（マルヤマ） 伊吹（イブキ）	田沢小学校	5	1	吉野（ヨシノ） 竜二（リュウジ）	津南小学校	5	2
志賀（シガ） 世那（セナ）	中津小学校	5	1	根津（ネツ） 太一（タイチ）	西小学校	5	2
小幡（オバタ） 亮太（リョウタ）	橘小学校	5	1	大島（オオシマ） 健斗（ケント）	田沢小学校	5	2
山田（ヤマダ） 航平（コウヘイ）	橘小学校	5	1	野沢（ノザワ） 俊輔（シュンスケ）	橘小学校	5	1
清水（シミズ） 凪（ナギ）	西小学校	4	1	小嶋（コジマ） 大聖（タイセイ）	下条小学校	4	1

3班	7名			4班	7名		
氏名	学校名	学年	回数	氏名	学校名	学年	回数
阿部（アベ） 七海（ナナミ）	西小学校	6	3	高橋（タカハシ） あすか	十日町小学校	6	2
諸橋（モロハシ） 采奈（アヤナ）	西小学校	6	1	藤ノ木（フジキ） 明代（アキヨ）	西小学校	6	2
村山（ムラヤマ） あみ	東小学校	5	2	小林（コバヤシ） 澪奈（レイナ）	西小学校	6	1
湯沢（ユザワ） 知香（チカ）	十日町小学校	5	2	恩田（オンダ） 詩織梨（シオリ）	東小学校	5	2
小野塚（オノツカ） 汐音（シオネ）	西小学校	5	1	柳沢（ヤナギサワ） 初（ウイ）	中津小学校	5	2
渡辺（ワタナベ） 香（カオリ）	橘小学校	5	1	田口（タグチ） 芽依（メイ）	橘小学校	5	1
板場（イタバ） 里佳（リカ）	水沢小学校	4	1	渡辺（ワタナベ） 緑（ミドリ）	橘小学校	5	1

参加者感想文

参加者　/班　名前 渡辺 悠太朗

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100kmの徒歩の旅で友達の大切さに気づきました。一人では、100km歩けなかったと思います。友達に助けてもらったり友達と歩調をあわせたりして100km完歩できたと思います。これからも友達を大切にしていきたいと思います。

ぼくは、今年で300km完歩できました。それは、スタッフのみなさんのおかげだと思います。ありがとうございました。

団長が高校生から学生スタッフになっていい、と言っていたので今度は、学生スタッフで100kmを歩きたいです。

参加者感想文

参加者 \ 班　名前 村山まな尚

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

100km徒歩の方法はいっかいでたから、だいじょうぶだと思ってたけどきつかったです。最初はしんの人はしっている人がいるかしんぱいでした。でもしっている人がいたのでほっとしました。友だちはしらない人のほうがおおかったです。でもだんだん仲良くなってきて最後は友だちになれました。次もいけたら友だちをふやしたいです。

参加者感想文

参加者 1 班　名前 [illegible]

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

1日目は、同じ地上の人は、全ったくしらない人はかりだったからちょっと心配でした。あと100km完歩できるかどうか心配でした。

2日目は、一番長い道だと聞いて歩けるかどうか心配になりました。さらに山登りだったのでつらかったけど、おくれなかったのでよかったと思います。

3日目は、22kmで2番に長い道だったけど、歩けるかどうか心配だったけど、日かげが多かった（登り坂や下り坂が少なかったので歩るけたのでよかったです。

4日目は、登り坂や下り坂が多かったので一番つらかったです

参加者感想文

参加者 1 班　名前 市川優大

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

1日目、キャンプに集合した時に(今年も完歩しよう!)
という気持ちでしたがやはり
(今年も完歩できるかなあ。)
などの不安もありました。ですが、(自分を信じてがんばろう)と考えながら1日目の道のりを歩きはじめました。
そして、学校に着くと、すぐにプールに入りごはんを食べレクレーションをしてねました。
このような日々が続き、ついに最終日の5日目になりました。
キャンプがあと1kmほどになってから全員で歩調コールをしました。
1,1,1,2そーれ 1,1,1,2そーれ
歩調歩調…そしてゴールしました。
ぼくは、学生スタッフの方々や団長やごはんを作ってくれた人、友達などのいろいろな人に感謝して迎えに来てくれた母といっしょによろこびました。
とても楽しい5日間でした。

参加者感想文

参加者 1 班 名前 丸山以吹

■ １００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100kmでいろいろな仲間にあえて楽しかったです。最初はしらない人がいっぱいだったけど5日の中でいっぱい友達ができてうれしかったです。100kmでいちばんがんばったのは歩調コールです。またらいねんもでたい。

参加者感想文

参加者 1 班　名前 小幡 亮太

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、初めての100km徒歩の旅に参加してみて100kmてすごくつらいんだなと思いました。一番つらかったのは2日目の土反です。のぼりがすごいつづいてて大変でした。けどのぼっている時に友達としゃべったりしたのでついたのがすぐってかんじました。3泊まる学校に着いたらやっと着いたと思いました。学校のプールで友達や大学生などと一緒に泳いでいました楽しかったです。

毎日がんばって歩いて完歩できたのでよかったです。

歩調コールも大きい声を出したのでよかったです。

来年も100kmに参加して200kmをめざしたいです。

参加者感想文

参加者 1 班　名前 山田航平

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100徒歩に参加するのは、初めてだったから楽しみだったけど、その中に正直不安もありました。スタートして、津南中等まで、歩いてゴールした時は、2日目歩けないくらいつかれていたし、話せる人も、あまりいませんでした。明日がご心配でした。。

2日目は、山登りでとても足がいたかったけど、昨日、宿泊で、友だちができたので、話しながら歩いてました。なんだか友だちがいると、安心できます。そして、2日目ゴールしました。

3日目も順調に歩き、4日目、この日は、家の前を通るのでワクワクしてました。

5日目は、家に帰れるとうれしい気持ちがいっぱいで、今日で帰れると思うととっても速足になります。そして、無事完歩できました。

最初は、これから、5日間かけて、100kmを歩くなんてできるのかなと思っていたけど、思い返してみれば、短い5日間でした。来年も出て、完歩したいです。

参加者感想文

参加者 1 班　名前 清水　凪

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

1日目は、深だったりと、二日目になってキツくなった。3日目、4日目、5日目は、そんなにキツくなかった。

ゴールした後は、うれしいという気持ちもあったし、寂しいという気持ちもあった。

来年も、100km徒歩の旅に、参加したい。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 関口 岳大

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、みんなで声を出していたから完歩できたんだと思います。最初の日は、すごくつかれていたけど、2日目から、大きな声で歩調コールができたから楽に歩けたんだなと思いました。ぼくは、目標の、「限界への挑戦」はできたと思います。

でも、「100km」と聞いて、「長いな」と思っている人もいますが、歩いてみると、以外と楽に歩けます。

2日目は、雨がふったけど、給水をしてくれる人や、水をかけてくれる人がいたから、完歩できたんだなと思いました。ありがとうございました。

今年は300km完歩ですが、学生ボランティアで400km完歩したいです。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 高橋 月依可

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

100kmを通じて感じた事は、つらいこともあったけどいっぱい友達ができてとても楽しかったです。あとみんながいたから100kmも歩けました。だから1人ではなくてもみんなで歩くと言うことがわかりました。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 吉野彩音

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

はじめは、「きょ年出たから、かんたんだろう」と思いました。名札をもらいました。「一人でもいけるだろう」と思いました。でいよいよ出発する時がきました。チクサクコールをげん気良くして、はいタッチをして、出発をしました。２到生の人は、しらない人がみていてわすれた人が１人いて、しってる人が２人いました。ぜんぜんしゃべりませんでした。だけど、歩調コールは、けっこう大きな声で言いました。

１日目は、津南中とにとまりました。２日目は、１人といっぱいしゃべりました。ほかの人とはほんの少しです。２日目は一番長いきょりを歩きました。

３日目は、ほとんどの人と仲よくなりました。

そして、もうやだと思いましたけど仲よくなってくれた人がいたから、がんばろうと思いました。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 根本太一

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

なぜこの100km徒歩の旅に出ようと思ったかというと
ぼくは去年も100km徒歩の旅に出ました。
そこでぼくはとても楽しかったので今年も出て200km
完歩めざしてがんばろうと思ったからです。
歩いている時の気持ちは、まずくるしかったです。けど歩調
コールで大きな声を出していたので弱音をはくことはあり
ませんでした。あとあつかったですけど水をのんでり
レッドがうちわであおいでくれたのでよかったです。すごい大きな
声を出していたのでよかったです。楽しかったことは
今年は去年とちがってファハウスつなしに行ったり、おに
ぎりのしゅるいがタタかったり、ゆうはんが全ぶ手作りだった
いいていたので楽しかったです。来年も出たいです。
くまとウォルドもまた来てほしいです。

参加者感想文

参加者 二 班　名前 六島健斗

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、二日目ぐらいにくあいが悪くなりました。
でも、あきらめないで100km完歩できたのは、
歩いていれば必ずゴールに、とうたつ
できると思っていたからです。あと、昨年年
は、同じ学校の友達がいなかったけど
今年は、友達がいたのでよかったです。
今年は、昨年より、暑かったのでたいへんでした。
でも200km完走できたのでよかったです。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 志賀世那

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、初めは知らない人ばかりだから友達は一人も作れないで5日間すぎるのかなと思っていました。でも、友達がいっぱいできてとてもうれしかったです。「今日、いっしょにねようぜ」と言ってくれる人もいました。ぼくは、とってもうれしかったです。そして、プールの時も、「いっしょに遊ぼうぜ」と言ってくれる人もいてくれました。ぼくは、こんなに友達がいっぱいできるとは、思っていなかったからびっくりしました。

そして、最後は、別れたくないと思っていました。また会ったらいっしょに楽しみたいです。

参加者感想文

参加者　2班　名前 [illegible]

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくがひゃく徒歩で一番[illegible]ことは2日目の山のぼりです。
なぜかと言うと、トンネルに歩いて入ったり、山道を歩いたりするのはぜんぶ初めての体験で楽しかったです。[illegible]
しちゃったりと、山ちゃんとそれにかかって来てくれた[illegible]
また。の[illegible]
[illegible]で、夜にはぜんとたいさいと[illegible]
[illegible]です。
あらためて、100km徒歩の旅実行委員会のみなさ
ありがとうございました！

参加者感想文

参加者 2班 名前 小じま大聖

■ １００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100kmを歩いてみて一番つらかったヨは二日目です。ひまわり(火田)にいく道がとてもつらかったです。上反道が多くて足がとてもいたかったです。二日目はとてもきょりが長くて暑くて体がすごくつかれました。

一番たのしかったことは、プールです。プールでは、ウォータースライダーをしてあそびました水中メガネがなかったので目に水がはいってちょっとやでした。

来年も行きたいです。

参加者感想文

参加者 3 班　名前 阿部　七海

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

今年は、3年目で、300km完歩!! ヤッター!!
今年は、とっても楽しかったです♡
つらいこともあったけど仲間がいたからのりこえていけたんだと思います。　そして、かげで、支えてくれた人や、セーフティーのみんなや、何よりもリーダー・サブリーダーの支えがあったからだと思います。　今年が最後だったので来年は、出れないけど高校生になったらスタッフで出たいと思いまーす。
今年の100徒歩も、とってもとってもいい思い出ができました♡

参加者感想文

参加者　３班　名前諸橋　[illegible]

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私は、今年初めて100kmの旅に参加したけど、1日目から足が痛くて「大丈夫かな?」と完歩できるか心配だったけど、3班のみんなや、リーダーのりょうちゃん、サブリーダーのまいちゃんが仲よくしてくれたり、やさしくしてくれて、足の痛みなどみんなと同じだと考えれば平気でした。もし、1人で歩いたとしたら、と中でくじけていたかもしれないのに、みんなと歩くとすごく楽しかったです。4泊5日で長いようですごく短かかったけどその短い間で、すごーく楽しい思い出になりました。

参加者感想文

参加者 3 班　名前 村山あみ

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私は、100徒歩に参加するのは2回目でした。でも、同じ学校の友達と班が分かれて、去年参加した友達しか吹っている人がいなかったけど、日がたつにつれて友達もふえていってよかったです。つらい時もあったけど、みんなとはげまし合ってがんばりました。私は、その、友達がいたから完歩できたと思いました。来年も100徒歩に参加して、300Km完歩を目ざしたいです。

参加者感想文

参加者 3 班　名前 [illegible]

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私は今年で200kmに完歩しました！とてもうれしかったです。私は100kmに完歩したからだいようぶ！と、お母さんに言いました。でも意外と坂道もあったから予想意外だった。でもいいことが2つあります！1つ目は友達ができたことです。2つ目は、いろんな道のりをのりこえられるべをしました！また今度もとって300kmに完歩したいなぁ…と思っています。後ゴールする時に、私の家方矢がみえたので、とってもうれしかったです！最後の力をしぼって「最後の一ぶ歩！」といってゴールしました。お母さんがみえたので、泣きました。おりがとうございました。うたも、うまくうたえました。そして代表として賞状もくばわれてとってもうれしかったです！次の年も出て、300kmに完歩したいなぁ…と思っています！少しの間だったけれども、

ありがとうございました！

参加者感想文

参加者 3 班　名前 小野塚 汐音

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

わたしは100kmの徒歩の旅に、はじめてでました。思っていたよりも、とっても大変でした。わたしは、すごく足が冷くなったり、すごく息が切れてしまって、つかれてしまいました。と中で、体調をくずしてしまい、セーフティーのかたたちにすごいぶん助けてもらい、とても感しゃしています。

とくには、しーに助けてもらいました。車の中で休ませてもらった事もありました。でも、中にいるおじさん（お兄さん）が色々な話をしてくれました。「クラブは何してるの？部活はき楽部なんだ～。何の曲なの？」と色々な話をしてくれてわたしでも、気軽に、吹き楽部でやってるのは、「金矢着999だよ。」と答えることができ、とても楽しい気持ちになりました。

すごく楽しい4泊5日の旅でした♪。

参加者感想文

参加者 3 班　名前 渡辺 香

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私は、今年初めて100km徒歩に行きました。行く前日は、ドキドキワクワクして、どういう人といっしょなのか？とか、100kmってどれくらいのきょりなのか？など議問がたくさんありました。私は友達と3人で行くことにしたのでいっしょが良いなと思っていました。そして当日、私は3班、友達2人は4班でした。それは残念で友達できるかなと心配でしたがしゅ発してお昼の時班のみんなでわになり、みんながおもしろく楽しい人だなと思いました。1日目はゴールして1日目で19kmなのにすごくつかれてこれから大丈夫かなと思いました。ねる時は友達とねました。それから2日目、今日は坂がすごく班のみんなで歩調コールでがんばってゴールできました。班のみんなの名前も、おぼれられました。3日目4日目は班のみんなと仲良くなれて話してくれたりしてとっても楽しく、うれしかったです。最後の5日目は、歩調コール全部の力を出しきって大きな声でがんばりました。キナーしに近づくにつれ、がんばった思いとさみしい思いがこみ上げてきました。そして全員でゴールできました。3班のみんなでゴールできてとってもうれしかったです。かんだん式が始まる前は「ありがとう」の練習をしました。私は4日5日の中の全部が楽しかったです。3班のみんなとの思い出がたくさんできました。みなさんありがとうございました。

参加者感想文

参加者 3班 名前 板場 里佳

■ １００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

一番大変だったことは、上り坂や下り坂（山）が多い所でした。とくに二日目のひまわり畑までの上り坂が大変でした。

あと、最終日に近づくにつれて、どんどん足がいたくなります。最終日は、足のいろんなところがいたくなって大変でした。

そんなときわたしは、綱領の「一歩一歩、前進すれば、必ずゴールに到達する」と言うこの言葉を頭の中で、考えながら歩きました。

そしてわたしは、友だちができるかが一番心配でした。でも、はんのみんなと話してるあいだに、ほかのはんの人とまで、友だちになれたのでうれしかったです。

あとわたしは、友だち（仲間）がいたからこそみんなでゴールできたと思いました。

参加者感想文

参加者 4班　名前 高橋　あすか

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

とっても楽しかったし、色々な人にも合えて、
とてもおもしろかったです。考えたことって
いうとないかもだけど、友だちが増えたり
したし、これからの自分のじしんが考えた
との中で『100歩徒の日者は…』とかが出てきたら
良いな～?とかも思いました。200kmが笑顔で
完歩できて良かったです。これからの什
什什にもいかしたいです。

参加者感想文

参加者 4 班　名前 藤ノ木明代

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

100km徒歩の旅は、ほかの学校の子たちと仲よくできるし、その学校のことが分かるので楽しかったです。足が痛くなったりしたけれど、友だちと話をしたり、歩調コールをしたりして、がんばって歩きました。家に帰ってから、犬とじゃれたりして、「やっぱり、家はおちつくなー。」と思いました。でもその後「もう100K歩きたかったなー。」と思いました。でももう私は六年生なので、次は、学生スタッフとして、出たいと思っています。

参加者感想文

参加者 4班 名前 小林澪奈

■ １００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

100徒歩をやって楽しかった事は、歩ちょうコールとみんなとのごはんとプールとみんなで寝る事です。歩ちょうコールでは、でっかい声が出せて気持ちがスッキリ♪できてよかったです。みんなとのごはんでは、100徒歩オリジナル?の「いただきますのごちそうさま」がおぼえられたし、ごはんがとてもおいしかったです。プールでは、シャワーがつめたくて大変だったけど、プールが気持ちよかったです。みんなで寝る事では、9:00に電気が消えてすぐにおしゃべりをしたりしたのが楽しかったです。

大変だったのは、上り坂と下り坂です。上り坂は、足が重くなり、大変でした。下り坂では、上り坂より少しは楽だけど、くつずれしそうだったし、ころびそうで大変でした。

また舞出たいけど、出れないので、今度は学生スタッフとして高校生?になったら出れるから、ぜったい出たいと思ってます!!

100徒歩サイコー♪(•∀•)

参加者感想文

参加者 4班 名前 恩田 詩緒梨

■ １００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私が、この100km徒歩の旅を通して感じたことは、「みんながいたから歩けた。」ということです。もし私が、1人で100kmを歩いたら、はげましてくれる人や声をかけてくれる人は、いません。けれどこの100km徒歩の旅では、友だちのはげましや、団長やボランティアの人が「だいじょうぶ？」などと声をかけてくださったおかげで完歩できました。そしてセーフティーのみなさんや、スタッフの方たち、地いきの人がおうえんしてくださったおかげです。みなさん本当にありがとうございました。

参加者感想文

参加者 4 班　名前 柳澤 礼乃

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

わたしは、昨年も100徒歩に出ました。けど昨年はキナーレに集まった時、ママに『帰ろうよ』と言いたくなりました。でも今年は、行きたくてしょうがなかったです。昨年の報告書や名札、DVDなどを何回も何回も見ていました。

100徒歩は、つらい時もあるけどいろんな事を自然にいろんな事を教えてくれます。協力する事、仲間の大切さ、自分でやりたいと思った事は、やりとげると必ずいい事がある。という事です。わたしは、100徒歩に出てから、積極的になりました。積極的にすると、とってもいい思い出ができます。自分でやろうと決めた事なら『あきらめる』と思う事が少ないと思います。　わたしは、歩く事が好きになりました。これからも同級生に歩く事だけは負けたくありません。

参加者感想文

参加者 4 班　名前 田口　茅依

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私が100km徒歩の旅に出て感じた事は、みんなと、いっしょにいると楽しいことと、ぜんぜんしらない人でも仲良くなれたのでよかったです。私は、最初100kmの長い道を5日間もかけて歩ききれるか心配だったけど大人の人とか、他の学校のいっぱいの人といっしょだったから、100kmを完歩できました。同じ班の人とは、けっこう話せるようになったし、リーダーとサブリーダーとも楽しい4泊5日をすごせて良かったです。1日目とかは、あまりみんなとは話せなくて、同じ学校の人としか話さなかったけど、2日目ぐらいから、班の人とは少し話せました。3日目ぐらいからは、楽しく話せました。100km徒歩に出てよかったです。

参加者感想文

参加者 4 班　名前 渡辺 緑

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私は今年初めて100km徒歩の旅に行きました。私は同じクラスの人が行くと言っていたので行きたいと思いました。同じクラスの友達5人と勇気をだして行くことになりました。　出発式では知らない人ばかりで不安になったけど何日もいっしょに歩いたりしているうちにいっぱいしゃべったりできて楽しかったです。班のみんなとまるとさやはおもしろくてやさしかったのでみんなと友達になれました。「歩調ゴール」は大きい声でがんばりました。つらい時もみんなで大きい声をだせばがんばれました。ゴールした時はとてもうれしかったです。100km徒歩の旅はとてもつらかったけど友達もできてとても楽しかったです。勇気をだして行って良かったと思いました。

保護者感想文

保護者氏名　渡辺 園恵

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

３回目の参加だったので特別心配する事はありませんでした。
この暑い中100キロ完徒に挑戦する柊太朗はすごい！
と思ってました。
又大雨被害等大変な時に開催を決定してしだった
実行委員の方々に感謝の気持ちでいっぱいでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

こんな暑さの中で歩いてるんだ。
暑い。暑い。暑い。と体力の事より気温ばかりが
気になっていました。太陽が沈むとホッとしてました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

顔負　とにかく真っ黒でした。足だけが真っ白でした。

目に見えて変わるという事はありませんが今回は顔つきが
少し変わったような気がします。ちょっとだけ大人への階段を
上ったのかも。参加最高学年として少し自覚を持って行動
出来ていたのかも。と想像しました。

高校生になったら今度はボウンティアとして徒歩の
旅に参加させていただく柊太朗を見るのが
家族みんなの夢です。

保護者感想文

保護者氏名　村山 剛

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

200km 目指して頑張ってこい!!

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

またいつものような　あまのじゃくぶり全開
なんだろ――なぁ――　^^ と…

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

この100kmの会は今すぐ何か形になるものだとは
思っていません。しかし私はそれで良いと思っています。
小さな積み重ねで大きなものを得る力となってくれると
信じています。
水も空気もよどんでいれば腐ってしまうように人も同じ。
そうならないように常に向上の気持ちを持てるような
考え方の基礎作りと思い、本人が決めて、やりたいと
思ったことには協力する。それが親として、できる事
だと思っています。
いつかここに参加した子供達が花開くのが楽しみです。"^^"

保護者感想文

保護者氏名 吉野タカ子

■ １００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

昨年参加し、歩くということにいやがらず、いろんなイベントでも行こうかな♪と自信がついたんだなと思いました。
水害の影響を心配とどうなるんだろうと子供たちも連絡を待ってました。

■ １００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

昨年、列からおくれて歩いている我が子を見て、終るまで5日間ずっと心配になってしまった。今年は何とか大丈夫かな、5日間逆に暑くて熱中症で、ダウンしていないかなと携帯を、やはり手ばなせなかったです。

■ １００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

昨年と同じく全く変わらず、逆に5日間のがんばった気持ちが、もうダラダラで、行く前より行動がスローになってました。
でも解団式の時仲間と会話したり、ニコニコしてる姿を見て、5日間つらいけど楽しく過せたんだなと安心しました。帰りの車の中でも、チラッチラッと話しをし2人であい、たくさんの思い出を作ってきたんだなとうれしく思います。
300k完歩するぞ♪と、2人共言ってます。この言葉が、この旅の内容にいっぱいつまっているんだと思ってます。スタッフの皆さんありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 石川 直子

■ １００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

健太は2回目の参加。
気をつけて、元気に帰ってきて欲しいナ。
いってらっしゃ〜い！ 云、宣教お願いしま〜す！

■ １００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

昨年に較べ、大部、暑い日が続いているけれど、
きちんと水分摂取は出来ているかな？ アセモは
出来ていないかな？
水害の被害の大きいところもあったけど、気をつけて行動していてネ。

■ １００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

それ程、驚く程の変化は感じられませんでしたが、
何かをする時、「出来る、出来る、必ず出来る。」と
呪文の様に唱える事があり、本人としては"頑張るゾ"の
活力を注入する時に云っている様な感じでした。
来年は3回目の100歩徒を目指しており、
当然、参加し、完歩するつもりの様です。
沢山の人達との出会い、これが一番の宝物になって
心に刻まれた事と思います。

有難うございました。

保護者感想文

保護者氏名　丸山由美子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

本人の強い希望で申し込みましたが、正直親はあまり賛成は
出来ませんでした。
100Kmという距離と暑さにとても不安でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

家ではゲームばかりしているので、テレビもゲームもない生活で
帰ってきたら、「二度と行きたくない、つかれた」と言うにきまっているなぁ～と
思ってました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

正直、大きな変化はありません。
でも、「来年も出たい！」と言った時は本当に驚きました。
あんな暑い中、1日 20kmも歩いてつらくないのかなぁ～と
私には不思議でした。
本人は、1日目がすごく足が痛くてつらかったけど楽しかった。でもイヤだった
のが弁当だった、と言ってました。

保護者感想文

保護者氏名 小幡君子

■ １００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

5日間も離れての生活が初めてだったので、心配でした。
熱中症など暑さに対しても心配でした。
でも、100km完歩して、精神的に強くなって帰ってきてほしいと思いました。

■ １００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

ごはんにちゃんと食べているかな、とか、今どの辺を歩いていているかなとか心配でした。
でも、届いたハガキを読んで、頼もしさを感じたし、頑張って歩いているんだと思い、安心しました。

■ １００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

すぐに変わったということは特にないですが、100km完歩したということで、自信がついたと思います。
あと、友達がたくさんできて、一生の思い出と宝物ができたと思います。

こうやって、100kmを完歩できたことは、自分一人の力ではなく一緒に歩いた仲間や、サポートしてくれた大人の人達、そして家族など感謝の気持ちを忘れずにいてほしいと思いました。

今回、子供たちを支えて励ましていただいたスタッフやボランティアの皆様本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　山田　優子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

100km完歩できるのか心配でした。
でも、お友達も参加するし、何より自分で「参加する！」と
決めたことなので、頑張を信じるのみだと思いました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

5日間がとても長く感じられました。
暑さも、きつかったので、ちゃんと歩けているか、
5日間、最後まで元気にゴールできるかが、とても心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

自分に自信を持てたような様子がうかがえます。
以前よりも明るくなったような気がします。
新しいお友達ができたり、スタッフの方々に楽しく接して
いただいた事が大きく影響しているように思います。
ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　清水憲昭

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

精心的に弱い子なので、歩けるのにリタイヤしてしまうのではないかと心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

様子を見たくてしかたありませんでした。
会ってはいけないとの事で、ネットで検索してなんとかJCメンバーさんのブログに載っているものを発見しましたが、情報が少なすぎる感じがしました。
どこにいるのかな？　どうなっているのかな？といつも考えていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

今は特に変わった事はありませんが、
風に聞くと、心に変化はあるけど、どう言ったら良いかわからない。
との事なので、これから先に、この経験が生かされるのではないかと思います。　ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　関口　由香里

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

今年で三度目の参加です。
三度目ということで安心せず、初心を忘れないで、
六年生として下学年をリードする存在であってほしい…
という気持ちでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

去年に続き、猛暑の中、辛いことも多いだろうなぁ…
夜は、きちんと眠れているだろうか…
タオルはきちんと替えているだろうか…
（去年は、首にかけるタオルを１回も替えていなくて、悪臭が…）

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

スタッフの皆さんから持ち上げて（?!）いただき、
本人も最高学年としての自覚や自信を深めたようです。
下学年の子に対して優しく声をかけたり、初対面の
人にもきちんと挨拶や話しができるようになりました。
少しずつでも、歩みを止めなければ必ずゴールに
到達できるという精神を、これからも持ち続けてほしい
です。苦しいことがあっても、100km徒歩の経験を思い
出して乗りこえてほしいです。
三年間、大変お世話になりました。感謝致します。

スタッフの皆様

保護者感想文

保護者氏名 高橋 久美子

■ １００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

昨年に引き続きの参加でいたので、不安や心配はありませんでしたが、
連日の気温の高さに、食欲と体調に感しては心配致しました。その点には、大変、気をつかいました。

■ １００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

熱い日が続きましたが、しっかりしたスタッフさんがいらっしゃるので特別、不安も無かったし、子ども本人が、望んで参加したのでさびしさもありませんが、万が一の事、携帯電話は常に離さなかったので、やっぱり心配もあったのだと思います。

■ １００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

昨年もでしたが、我が子だけなのでしょうか、
あまり、帰宅後、すぐには様子は変わりません、出発前と同じ様な気がします。
しかし、何日、何ヶ月、過ぎますと、「夏の100k徒歩」の経験で、以前よりも考え方や言動が少し違う…という姿がみられ、家族とも話してきました。今回の参加で、得た事を少しづつ感じていきたいと思います。大変、有難うございました。
お世話になりました。

保護者感想文

保護者氏名　根津 由美

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

２回目のチャレンジということもあり、本人も家族も様子はわかるので
その点の心配はなかったです。
何回か歩くトレーニングをして　やる気満々の子供の様子を見て
たのもしく感じてました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

１日に何度も日程表を見ては「そうすぐ休暇時間だな～」
「こんな暑い時に歩いてるんだよな～、がんばれ!!」と思いをめぐらせて
いました。
昨年いただいたひまわり畑の種をまき、我が家で咲いた大きな
ひまわりを見ながら、みんなのがんばりを祈ってました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

声をからして真っ黒になって帰ってきました。ゴールテープの目指して
大きな口を開けて大きな声を出して歩いてくる子供の姿が目に焼き
ついています。200キロ完歩達成!!　「来年も出て300キロ完歩だ」と
張りきっています。
帰宅後は、残った宿題に追われバタバタと相変わらずの日々を
過ごしています。
ですが「大きくなったら学生スタッフとしてがんばりたい」という目標も
できたようで、親として　誇らしく思っています。
学生スタッフとしてがんばりたいという目標の背景には　子供達を支えてくれた
スタッフの皆様方がいたからこそと思っております。本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　志賀 カロイ子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

小学校全体で55名。同じ学年は、7名と少人数の中で生活しているので、初めて出会う人達との関わりが上手に出来るか心配していました。体力面は、野球やマラソンをしている事もあり、歩けるかどうかという心配はそれほどありませんでしたが、必要以上に緊張するところがあるので、熱が出たりしないか心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

毎日、ものすごく暑い日が続き、熱中症の心配をしていました。こんなに、暑い中をなぜ歩かせなくちゃいけないのかと、子供がかわいそうになりました。すぐにでもやめて帰って来てもいいのにと思っていましたが、日が経つにつれ、子供たちが、頑張っているのだからと、自分も頑張ろうと思うようになりました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

特に、何かが、ものすごく変わったという事はなかったですが、少しまわりの事が見れるようになり、気がつくようになりました。
好きな物が食べれて、大好きなテレビが見れること、お風呂に入れること、布団の上で寝れる事などなど、あたりまえに出来ている事がすごく幸せな事なのだと、感じている様です。　親は、子供達が望むことを出来るだけしてあげたいと思いました。がそんな思いも1日で終わってしまいました…

保護者感想文

保護者氏名　大島敏江

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

2回目の参加でしたので　昨年ほどの心配がなく
落ちついていられました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

今年もとても暑い日々だったので　体調が
心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

今年はとても楽しくスタッフや仲間と過ごした5日間が
充実していたようです。2日目に体調を崩しすごくつらくて
救護車に乗ってしまいたい、と思ったそうです。けれど車に乗ってしまったら
完歩賞はもらえないのかなと考えている時にスタッフにかけてもらった言葉で
また歩き出したそうです。"おかあ　ゴールって必ずある人だな！"子供の
この言葉が今回の旅のすべてのような気がします。
昨年もそうでしたが目に見えて変わったとこはないけれど　彼なりに
何かを感じて帰ってきています。
100km徒歩をサポートしていただいたすべてのスタッフに感謝しています。
本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　野沢 美由紀

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

とにかく後輔の気持ちが申し込みをしてから当日までに変わらないだろうか？
期日までに申し込み書を提出したり、振り込みをしたりできるだろうか？
4泊5日分の準備をぬかりなくできるのだろうか？
ふだんサッカーしかしていないし、学校までは近いし…歩けるのだろうか？
親が説明会や報告会に必ず出席できるのだろうか…と、親として100徒歩に（仕事の都合で）むけてきちんと準備できるのかが常に心配でした。後輔の気持ちはあえて聞きませんでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

出発してしまえばもう神さまを…スタッフの皆さんを…そして後輔を信じるしかない！大丈夫 大丈夫!!と思ってました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

後輔は欲張りじゃなくなりました。
なでしこジャパンもW杯で優勝したこと、災害があったことなども含め、「達成感」とその達成感を味わうには「挑戦すること、多くの人々に助けられ、そして助け合うこと」が大事だということがわかってくれたのだと思います。

保護者感想文

保護者氏名　小嶋奈苗

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

とにかく楽しみな気持ちでいっぱいでした。
本人が待ちに待った「100km徒歩の旅」でしたし、友人を誘わず、1人で参加したいという意気込みに、とても頼もしさを感じていました。その反面、ちゃんと友だち作れるかな…1人でポツンとしてないかな…と心配でもありました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

最日の自己紹介を聞いていたら、大きな声で話をしていたので、安心して送り出す事ができました。
とても暑い日の連続だったので、体調をくずしていないか、心配でした。「今頃どのあたりを歩いているだろうね」とか「何してるかな」「もう眠ったかな」等、大聖がいる時よりも大聖の話をしていた様な気がします。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

忘れられないのが、ゴールして、私をみつけて、目が合った時の大聖の恥ずかしそうな笑顔です。こんなに長い間、離れていた事がなかったので、きっと、お互い、うれしくて恥ずかしかったんだと思います。思わず涙が出ました。
普段あまり学校での事など話さない大聖が、うれしそうに放先での出来事や友だちの事を語ってくれました。具体的に何、とは言えませんが…目に力が入りました。
ひとまわりも、ふたまわりも大きくなりました。感謝致します!!

保護者感想文

保護者氏名　阿部 友美

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

三年目だったので、心配はあまりありませんでしたが、
七海の余裕がかえって不安でした。全然、練習もせず、
いつものタラタラした生活。今年は本当に大丈夫かなあと
でも七海の「大丈夫、超楽しみ～っ♡」の言葉に、
安心して送り出しました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

また、昨年同様、今年も暑い毎日　頑張ってるんだろうなあ
という願いだけ、体調は新しい友達と仲良くしてるかな、毎日、毎日、私も100徒歩に参加しているつもりで、
楽しんだり、心配したりしていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

ゴール!!した時はなんでこんなに元気なのと思うほど、
笑顔でびっくり楽しかったんだろうなとすぐわかりました。
でも家につくなり涙、涙。三年目で最後だから…と思ったら
もっとみんなで歩きたかった、一緒にいたかった、家に帰って来たくなかった、と言われました。（皆さんとの日々が思い浮びました）
やりきった感が強く何日かはボッーとして
思い出しては涙、涙ばかりでしたが
頼もしい、しっかりとした自信をもった七海に成長をすごく感じる事が出来ました。三年間ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　諸橋　健司

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

実際に親も100kmは歩いたことがなかったので、最後まで完歩出来るのか？毎日、夜早く寝て、朝、早く起きられるのか少し心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

スケジュール表をいただいていましたので、もう朝起きたかなとか、今頃、皆と昼食を食べているかなとか、今日の歩く分は終ったかなとか、色々考えてましたが、あまり心配な気持はありませんでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

帰宅後にすぐに思ったことは、急に背が伸びたなと思ったこと、それとちょっとばかり体がたくましくなったかな、あとは、1日、2日と疲れたと言っては、ぐ～たらしていましたが、今は元に戻って良かったです。5日間、一緒に過ごした友達、そしてスタッフの皆さんと触れあったことを生かしながら大人になってくれると良いなと思っています。

保護者感想文

保護者氏名 村山明徳

■ １００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

２回目の今年も最後まであきらめないで歩きぬいてもらいたかった。
昨年に続き２度目の参加なので昨年とは違うものを感じとってもらいたいと思った。
あとは暑さの心配。

■ １００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

毎日暑い日が続き体調が心配だった。
新しい友達はできたのか？毎日平均20kmを苦しいけれど楽しんでるかな？

■ １００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

何が変わった！と大きく感じられない。
今年参加して「また来年も300km完歩する！」と言う本人の言葉に何にでもチャレンジする気持ちが強く感じられる。
来年に向け少しずつ本人が変われるよう私達も手助けしたい。

保護者感想文

保護者氏名 湯沢 一久

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

前回お世話になり、ありがとうございました。今回は「豪雨災害で中止になるかも」と知香に言うと、残念な顔をしていました。「100徒歩あるよ」の知らせに「やった」と喜ぶ表情に完歩を確信。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

自宅のトイレのドアに「命を大切にしよう」と自分で書いて貼って参加したので、きっと良い思い出を沢山つくって帰ってくると期待。「命」という字を大く書いて、その下に「命があれば楽しいことがいっぱいある」と書いてあります。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

子どもが「ひとり」では、歩きとうせる距離ではありませんが、スタッフ、ボランティアの皆様、友達との「ふれあい」がパワーを生み出していると思います。以前に比べて、明るく前向きになったように感じられます。楽しく、有意義な時間を与えてくださいました、越後つまり100km徒歩の旅実行委員会の皆様、ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 小野塚 美弥子

■ １００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

今回、初めての参加でした。100km徒歩との出会いは 昨年 学校からの手紙をもらい「私、これに出たい」と言ってきたのが始まりでした。しかし、その時は、もう締め切り後でした。本人はとても残念がっていました。そしてとうとう1年後 念願の手紙を手に「今年こそ行きたい」と持ってきました。しかし、日程を見てびっくり。前日まで学校の自然教室があり とても悩みました。参加して具合が悪くなり皆に迷惑かけないだろうか。完歩することはできるだろうか。とても考えましたが、本人が行きたいと言っているなら、行かせよう！と決めました。

■ １００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

前日までの疲れがでていないだろうか。今、どこを歩いているかな。ご飯はちゃんと食べているかな。あ～今この辺に居るんだ～。見たい、見に行きたい。一目会いたい。そんな気持ちでいっぱいでしたが、でもきっとあの子の事だから何とかなるかな～という気持ちもありました。出発する時の元気な声、笑顔を思い浮かべ、どんな顔で帰ってくるかな～と楽しみでした。

■ １００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

ゴールの時の笑顔、解散式の堂々とした言葉。あ～参加してよかった～。と思いました。家へ帰ってからも食事の姿正が良くなり、ほめていたら「100km徒歩の時、テーブルがなくて、背筋を伸ばさないと食べづらかったんだ。だから自然と伸びるようになったんだ～」との本人の言葉。今までは、注意してもなおらなかった事が、出来る様になった事、難しい仕事を頼んだ時も、ぶつぶつと「出来る、出来る、必ず出来る」と唱えるように言いながらこなしていました。少しずつですが、生活の場面で"生きていく力"を身につけてきたと思います。

汐音が解散式で言った 学生スタッフの皆さん、スタッフの皆なさんに、ありがとうと感謝の言葉を言っていたのを聞いて、本当に参加できてよかったです。

お世話になった皆さん、ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　渡辺春美

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

・参加者募集のチラシや知人の話しから、100km歩きぬく子供は、とても元気で勇気あるがんばれる強い子だと思っていました。どう考えても辛く面倒くさい事なので、家の子は行かないだろうなぁ…と思っていました。ところが運良く同じ学校の友達が参加を決めていて、勇気をだして又切間近に申し込みました。成し遂げる事ができたら、すごいと思いました。ただ実際の詳細はまったくわからず、説明会・研修会をまずは行ってみようと思いました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

・直前の水害で不安が増し、大雨に対する注意が続いていた為、自然災害が心配でした。そして熱中症も心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

・知らない子供たちや大人の方と、たくさん交流があったようで、とてもとても楽しかったと喜んでいます。今までになかった事です。スタッフの皆様には、本当に親切に子供をサポートしてて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。お世話になりましてありがとうございました。かけがえのない、すばらしい経験になりました。

保護者感想文

保護者氏名　板場 香里

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

ここ最近の里佳は、友達と一緒でないと何も決められない何も前向きになれない里佳だと思っていました。今回「ひとりでも大丈夫」とうなづいた里佳を観て驚きました。里佳の思いは、わかりませんが、成長を期待し、楽しみながら出発の準備をしました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

ちゃんと列なと一緒に歩いていることを祈っていました。
今はどこで何をしているのか、今日の天気はどうか、といつも家族みんなで話をしていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

何も変わりません。
帰宅当日も荷物を片付けず、放ってしまい、のびなくなりました。
里佳にとって100徒歩はすごく特別な事でなく、ちょっと遠足にでも行って来たようなさりげない感じです。
少しだけ御飯を多く食べれるようになったような、少しだけ早起きなったような、少しだけお手伝いをしてくれるようになったような…まだまだ里佳は、充電中のようです。

保護者感想文

保護者氏名　高橋 香織

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

普段これといった運動もしていないのに、本人は２度目だからか「大丈夫、歩ける」といった自信があって、楽しみ、うれしいという気持ちばかりで緊張感があまり感じられず。体調面にトラブルが起きるのではないかと少し不安はありました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

今どの辺を歩いているのかな？今日はどこで寝ているのかな？と毎日スクショール表を見ていました。お守りを作って渡す時「辛くなったら見てね」と言うと「辛くならないから見ない」と平然と言ったあのかだから無事に歩くだろうと信じるようにしていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

本人「百徒歩後遺症」と言っています。ずっと終わらなければよかったとも。それだけ一緒に歩いて友達になったチャや学生・社会人のスタッフの方とのつながりが、あすかの中で大きかったのだなと感じています。
ただ、ちょっと日常の生活に戻るのに日数がかかりました。
多少辛くても「百徒歩の時はこうだった」と思い出してこれからの生活に生かしてもらえたらなと思います。
今のところ生活に変化はナシです。でも、あすかの内面はきっと成長しているんだろうと思います。

あすか！200kmよく歩いたね！頑張ったね！これからも色んなことにチャレンジしようね♡

保護者感想文

保護者氏名　藤木明子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

昨年も参加させていただきましたが、状況も違いますし、暑さも心配していました。本人は、昨年も参加しているのでまた懐かしさも感じていて、それが逆に大丈夫かなと不安に思っていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

暑い中がんばって歩いているんだなと、一日の中でも時々気になって考えていました。本番当日に他の参加者のみなさんと顔あわせとなったので、そのことを朝代も気にしていましたし、グループのみなさんと仲良くできているか心配もありました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

特に変わったことは感じません。
しかし、完歩したことで、自信がついたり、他の仲間の人達と協力して何かをやりとげることの大切さを学んだようです。

保護者感想文

保護者氏名 小林尚子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

すっかり暑ければエアコン、移動は車という生活が定着しているので歩ききれるか、暑さにバテないか心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

歩いている様子が分からないので連日の猛暑の中具合が悪くなっていないか、夜ちゃんと寝れているか、ご飯はしっかり食べているか心配してました。
連絡がこないのは元気な証拠と思って1日1日過ごしていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

すっかり元の生活に戻ってしまい友達のところに行くにも習い事に行くのも車をあてにしてます…。

暑さにもすぐエアコン…。

内面の変化はすぐ見えませんが変っていることを願ってます。

保護者感想文

保護者氏名　恩田勇一

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

大変な災害の直後でもあり、開催されるのか、気をもんでいたところに開催の連絡をいただき、ホッとするとともに、スタッフの皆様が、例年以上の苦労があると思われる中で、決断いただいたことに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

出発の日は朝から、詩緒梨は、あまり元気がないように見えました。キナーレに着いて、友達と別の班であることからか、より一層、なんだか悲しそうな顔をして出発していったので、少し不安でした。やはり、気持ち次第なところが多分にあると思いますから。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

五日間で目に見えて、変わることは、無いのでしょう。
100kmを無事に歩けるのは、団長をはじめ、スタッフの皆様が大変な苦労をされているからであり、そのことを知って、これから成長していってもらいたいと思います。
来年も参加すると言っています。そして、またゴールまで導いてもらえるのでしょう。できれば、将来、学生スタッフ等として参加して、恩返しをするようなことを考えてくれれば良いなあと思っています。

保護者感想文

保護者氏名　柳澤 佳恵子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

友達をたくさんつくって、夏休みの冒険をめいっぱい
楽しんできて欲しいと思って参加させました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

悔いのないように積極的に毎日を過ごせているといいなあと
願っていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

昨年は帰ってから行動に良い変化がみれたので、今年はもっと期待をしていました。
昨年と違って、今年は行動に変化はみられなかったので残念でした。
帰宅後何週間かして、仲間や友達という話題で話す機会があったのですが、仲間と一緒にひとつのことにチャレンジをする、一緒につくる、時間を共有する、共にやりとげるということにしっかりとした意見を持っていることには感心しました。100km徒歩の旅で経験したことが積み重なって、人間の軸というか、ブレない意思ができて、糧になったのだと心から思います。
（今回の旅が）

保護者感想文

保護者氏名　山口佳代

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

お友達と一緒に参加を決め、ウキウキしている娘を見て頑張ってね!!と応援すると同時に、毎日の暑さ、100kmという長〜い距離を考え、不安もありました。この他にも、人見知りをする娘が初めて会う人達と5日間上手に過ごせるだろうか？と次から次へと心配が増していくようでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

1日目の出発時ハイタッチで視送りはジワ〜と涙が出て…でも子供達はこれからが大変なんだと思い、涙はなんとかこらえました。が5日間会社で仕事をしていても、時計を見ては、今頃どこ歩いてるのかなぁ？熱中症になってないかなぁ…？とソワソワ。夜になってメール連絡が無いから無事なんだろうと自分に言いきかせる毎日。知人から「今日、歩いてるの見かけたよ…。皆頑張ってた!!」と聞き安心。本落神社での休憩の様子を家に電話をして聞いて安心。きっと大丈夫!!と思えるようにしていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

疲れるという事が無いのか?!次の日学校のプール開放に行っていました。今回一緒に参加したお友達と「来年も100kmぬたい?」と話したそうです。今までは買い物で一緒に歩いている時など時間が長いと「足が疲れた…」等すぐに言ったりしていたのがウソの様。

津南方面など車で走行中、「ここ歩いたよ…」「あそこで休かけしたヨ」と色々話してくれます。何より、色々な人とかかわりを持つ事で、5日間のうちにお友達が出来たのが一番の喜びの様です。9月11日に再会できる事を楽しみにしている様子です。

学生スタッフ名簿

担当		氏名	学校	
団長補佐		山田昇	新潟産業大学	2年
1班	リーダー	吉楽健一	国際こども福祉カレッジ	3年
	サブリーダー	村松紗弓	上越看護大学	3年
2班	リーダー	大熊洋太	上越教育大学	2年
	サブリーダー	江口弥生	国際こども福祉カレッジ	2年
3班	リーダー	齋藤亮	上越教育大学	2年
	サブリーダー	福島麻衣	十日町高等学校	2年
4班	リーダー	樋口清蘭	上越看護大学	3年
	サブリーダー	山崎めぐみ	上越教育大学	3年
セーフティー	筆頭	賀原一陽	上越教育大学	3年
		舟生博紀	上越教育大学	3年
		橋口翔太	上越教育大学	1年
		村山瑞樹	新潟産業大学	2年
広報記録		大平千裕	上越教育大学	3年
生活給水		只野さやか	新潟産業大学	2年

学生スタッフ感想文

学校名　　新潟産業大学　２年　　学生スタッフ氏名　　山田　昇（山ちゃん）

この100km徒歩の旅を通じて色々な発見や色々なことを学ばせてもらった。

一つ目は常に挑戦すること。初めの頃の研修会で団長が私たちに投げかけた問い、この椅子と机をどのくらいで片付けられるか。単純な作業ゆえに予想がしづらい。3分や１分といった意見が挙がったが、実際本気で片付けたところ 30 秒ぐらいで出来てしまった。普段の自分ならどうしているか。重ね合わせると、絶対こんなに早く片付けてはいなかった。普段の私は出し惜しみをしていたことに気が付いて恥ずかしくなった。そこで本番中では少なくとも出し惜しみ無しの 100ｋｍ徒歩の旅を目指すことによって、本気の自分、本当の自分を見つけ出す挑戦をしてみた。結果は５日目にようやく、何かいつもの自分と違うと実感がわいてくるくらいであった。しかし小さな変化でも100km徒歩の旅に参加したからこそ得られたものには変わらない。この挑戦は自分にとってとてもプラスになるきっかけを作ってくれたと思った。

二つ目は試練や苦労にも感謝すること。今年、団長補佐の役割を私は任命された。今年新設の役割であったため大きな不安と責任感を感じた。しかし研修中に団長がおっしゃった言葉「頼まれごとは、試されごと」が頭のなかをよぎると「私は今から試されるのか」と思いわくわくした。しかし団長補佐の仕事はやってみると非常に大変だった。学生スタッフ間の調整、社会人スタッフと学生スタッフ間の調整、健康管理、対列全体の監視と調節、時間管理とみんなの前で話しをする以外目立つことの無い仕事、調整の仕事が多かった。時には社会人スタッフと学生スタッフの間で認識の違いから手違いを起こしたり、時間管理がうまくいかなかったりと反省すべき点もあった。そのつどみんなで知恵を出し合って問題を解決し、乗り越えることが出来た。この事業がみんなの頑張りで運営されていることをひしひしと私は感じ取ることが出来た。任命してくださった団長、難しい問題を一緒に解決した仲間、そして私に降りかかってきた試練に感謝である。

この100km徒歩の旅で一番うれしかったことは解団式での子供たちと保護者の皆様の笑顔と感謝の言葉だった。解団式後はハイタッチでお別れ。保護者の方も子供たちもそして学生スタッフみんないい顔をしていた。すれ違い際の「ありがとう」の言葉がとても心に響いた。

100km 徒歩の旅に参加したことによって私自信かなりの経験と勉強をさせてもらえた。その一つ一つの経験を行動でものにしていきたいと思う。「知識＋行動＝智慧」である。今回、私は知識を得た。今度は普段の生活、学校、地域において、知識をもとに行動していきたいと思った。

学生スタッフ感想文

学校名　国際こども福祉カレッジ総合福祉学科３年　学生スタッフ　吉楽健一（きらけん）

私は今回の 100km 徒歩の旅で「伝える」という事の大切さについて学ぶ事ができました。

１つ目の「伝える」は伝達の方法です。今回の 100km 徒歩の旅では１班リーダーという重要な役を頂き、子ども達に情報を伝達する機会が多くありました。伝える情報は様々で、歩行中は安全管理に関する情報伝達が多くなります。その時の歩行状況に１番合った伝達方法を選んで伝えるわけですが、最初はなかなか上手に行かず班のメンバーにも迷惑をかけたと思います。しかし伝達の回数を積む中で、班の隊列の横に並んだ位置での声かけが一番メンバーに伝わるという事が分かってきました。安全管理というのは学生スタッフの中でも大きな課題の１つでした。そこへ「伝達の方法」という要素が加わった事で安全に全員完歩できたのではと思います。

２つ目の「伝える」は感謝の気持ちを伝える事です。私が受け持った１班はシャイな男子の集まりでした。初日は私の投げ掛ける言葉にうなずく程度で、自分から話しかけてくるという事は殆どありませんでした。班のメンバーみんなの笑顔が初めて見れたのは初日の温水プール。やっと見れたみんなの笑顔に正直ホッとしました。一緒に居る時間が増える中でメンバーとの中も深まり会話も徐々に増えていきました。しかし、なかなか「ありがとう」という言葉を言えずにいるメンバー達。「どうしても４泊５日の旅が終わるまでに言わせたい！」私はそう思うようになっていました。４日目の体育館を暗くしての班ごとの振り返りの時に「この 100km 徒歩の旅はたくさんの人が応援してくれているおかげで歩くことができるんだよ。だから感謝の気持ちを班のメンバーはもちろん、他の人達にも伝えよう」という話をしました。最終日、全員が今出せる力を全て発揮し、とても大きな歩調コールを十日町の地に響かせる事ができました。ある意味これも自分が育った街への「ありがとう」という気持ちの伝達かもしれません。そして全員無事ゴールし、解団式を終え最後のハイタッチ。班のメンバーがハイタッチと同時に「ありがとう」と言葉を掛けてくれました。本当にシャイな男子だらけでずっと不安でしたが、ここまで成長したのかと思うと涙が出そうになりました。少しでもメンバーのみんなに感謝の気持ちへの考え方が伝わっていたら良いと思います。

100km 徒歩の旅を行った中で反省する点もいくつかありました。その中でも私が１番に思う事は時間の使い方についてです。本番中は時間にあまり余裕がなく自分自身が焦ってしまい班のメンバーにも焦らせてしまう場面が何度かありました。それは単なる事前準備不足であったり、突然の出来事だったりもしましたが、自分の心に少しでも余裕を持っていれば、その後の行動を落ち着いて行えたのではと今では思っています。今後は心に少しの余裕を持っての行動を心掛けたいです。

100km 徒歩の旅の終えて、確実に成長した自分がここにいます。これも素晴らしい仲間がいてくれたからです。本番中はなかなか伝える機会がなかったので今更ですが伝えます。

最高の夏をありがとうございました！！みんな大好きです！！　　おわり。

学生スタッフ感想文

学校名　新潟県立看護大学　３年　　学生スタッフ　村松紗弓（さゆみ）

100キロ徒歩の旅で過ごした５日間はとても充実していた。事前の研修からどんな子どもたちに会えるのだろうと楽しみだった。初日に１グループの子どもたちと会って私も緊張していたけど、子どもたちも皆緊張しているようでおとなしい印象を受けた。それでも歩き始めると隣の子とおしゃべりをして仲良くなっていた。２日目になると積極的に声を出してグループを引っ張ってくれるような場面もあり頼もしく思った。１日を歩き切り学校に着くとなぜかこどもたちは元気にはしゃいで遊んでいてそのパワーはどこからきているのかと本当に不思議だった。さっきまで足が痛いなんて言っていたのにあの顔はどこにいったのだろうと思っていた。子どもの限界はどこにあるのか疑問だった。最終日みんなが疲れて昼食後グループの元気がなく心配になったこともあったが、声を出して歩調コールを続けることで活気を取り戻すことができてほっとした。このとき私たちは何かを越えられたのかな。５日間歩く中で子どもたちは日に焼けて真っ黒になり、歩調コールはちゃんと前後に届く大きな声になっていた。５日目に子どもたちをみてその姿がたくましくなったように思えた。また子どもたちの仲間がいたから歩けたという感想を聞いて嬉しかった。５日ぶりの子どもたちの姿を見たら、子どもたちの親御さんは驚くのだろうなと思うとゴールの瞬間が楽しみに思えた。

サブリーダーとして先頭をあるいてみて、最初は前ばかりを見てしまい後ろに気を配ることが足りなかったが、徐々に後ろに注意を向けて歩くことができるようになったと思う。それでも横断では上手くできなかったこともあったし、判断に悩むこともあったので反省は多かった。しかし先頭で旗を持って歩く中で水を飲むときにはすぐ後ろの子が旗を持つのを代わってくれて、そんな優しさが嬉しかった。また後ろを振り返ると子どもたちの顔を見ることができ、安心した。子どもたちの新しい面を発見するたび本当に嬉しかった。毎日 12 時の就寝時間ぎりぎりまで報告や日記の返事を書いて大変だった。そんな化粧水なんてつけている暇もなくて、終わるとすぐ寝袋に入り込むような生活だったけれども充実感があった。ゴールまで歩き切ったときはその喜びや達成感をみんなで共感でき、100 キロ徒歩の旅で成長できたことを私自身も感じることができた。全員で歩き切ることができたことに感動したし、感謝の気持ちを感じた。もちろん辛いなと感じるときはあったのだろうけれども今振り返ると本当に楽しかったと思う。歩いている間だけでなく共にご飯を食べたり、プールに入ったり子どもたちと過ごした５日間は本当に貴重な時間になった。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学　２年　　学生スタッフ　大熊洋太（クマ）

「越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅」私はこの事業にスタッフとして、そして１班のリーダーとして参加しました。生まれ育った地域の魅力に触れ、自分自身の「限界への挑戦」することを通じて、これからの社会を担う子どもたちの豊かな人間性を育むことが目的の旅でしたが、この旅で私自身も多くのことを学び、成長することが出来ました。

事前に行われた研修では、１００ｋｍ徒歩の旅の意義の確認や学生スタッフメンバーとの話し合い、そしてコースの試し歩きをして本番に備えていました。本番前最後の研修が終った時には、今のちからで子どもたちを引っ張っていけるのかという不安もありましたが、スタッフの仲間がいてくれたことで、背伸びしようとせず自分にできることを精一杯やって、みんなで１００ｋｍを歩き切ろうと覚悟を決めることが出来ました。そして迎えた当日、素晴らしい天気に恵まれやる気は最高潮でした。開会式が終わり歩き始めると早々から真夏の日差しと地面からの照り返しによる暑さが襲ってきましたが、地域の方のあいさつや励ましの言葉がみんなの足取りを軽くしてくれました。地域の方の声に支えられ順調に進むように思えた旅でしたが、やはり試練というものはやってくるものです。疲れや体の痛みのためか、班の足並みについていけない子や大きな声で歩調コールをかけられない子が出てきたのです。予想していた事態ではありましたが、実際に起こるとやはり焦ります。私の力不足のせいもあり、声かけを行ってもなかなか元気は戻ってきません。この時私は「声が小さくなってきたよ！もっとお腹から声を出して！」と子どもたちに発破をかけましたが、子どもたちが疲れを忘れるようなくらいに熱中させてあげるためにもっと良い言葉がなかったものかと反省しています。頑張れという言葉だけでは精神的な踏ん張りがきかない時は、別の方向からの励ましも出来ればよかったと思いました。

しかし、最終日には班の子どものほとんどがお腹から声を出して、足並みも揃っていたことにとても感動しました。予想以上に大きな声の出る子どもに驚き、班の仲間同士で励ましの声を掛け合っている姿に嬉しさを覚え、この旅で成長した子どもたちの持っている可能性やちからを改めて知ることが出来ました。子どもたちが「限界への挑戦」をしたからこそ得られたものではないかと思います。ですが、感動と同時にもっと早くから「限界への挑戦」をさせてあげられたら、子どもたちの成長はさらに大きなものになったのではないかという心残りもあります。

いくつかの課題はありましたが、１班の仲間たちが１人も欠けることなくゴール出来たことがとても嬉しかったです。子どもたちと同じくらい多くのことを学び、たくさんの仲間にも出会えたこの旅に心から感謝しています。

学生スタッフ感想文

学校名　　国際こども福祉カレッジ　２年　　学生スタッフ　　江口弥生（やよい）

「日常で苦労や試練に感謝できていますか？」

そう言って、澤野団長は１００徒歩の綱領について話をしていた。「有り難いと思いながら普段過ごせてないだろうか」と私は頭の中で振り返る。自分で考えたり、他者の意見きいたりグループワークなどの作業や試歩を行い、１００徒歩の本番に向けての準備として学生スタッフ研修を重ねてきた。

８月６日、第３回越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅は予定通りスタートした。小学生のサポートをする４泊５日間の旅。そして私の初めての１００ｋｍ徒歩の旅でもあった。

私は１００徒歩を通して、まず人はただ生きてるだけでは満足しないことを身に感じた。またお金さえあれば何でも手に入る時代で、私たちは「みんなが持っているから私も」と、流行の服を着たり、携帯電話を持ったりしたがる。そういう物を手に入れなければ、人並みでないと考えがちであるが、人の価値は持っている物では決して計れない。重要なのはその人が何を考えているか、何をしているかである。

私は１００徒歩でこのことを痛感した。自分の思いを他者に伝え、他人に自分を認められているという意識を持ってこそ、他者とコミュニケーションができ、社会の中で生きていくことができると思った。こうした自己表現を失うと、社会性を失い、自分を失ってしまうのではないだろうか。自分の思いを人に伝えることは大切である。

今は未熟で、「これが私だ」と言えるものはないが内面を磨きながら自分らしい生き方を見い出していきたい。日々勉強を重ねることはもちろんだが、自分がつらいときでも周囲を気遣えるだけの余裕がもてる社会人になれる様、研算していきたい。

最後に１００徒歩に関わった全ての方に感謝します。本当にありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名：上越教育大学　２年　　学生スタッフ　齋藤　亮（りょうちゃん）

私はこの「越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅」を通して２つのことを学ぶことができた。

１つ目は、「いままでは自分の中の限界を簡単に決めてしまっていた」ということである。私は最初、１００ｋｍを歩くことに対して自信がなかった。「完歩は難しいだろう、またこの旅の主人公である子どもたちの完歩の手助けをすることができるだろうか」と当日の朝までとても不安だった。何度も行った試歩や当日を想定しての危険な場所の確認、信頼できる仲間たちと何度も研修を行い万全の体勢で本番当日を迎えることができるというのに、私の中の不安は晴れることはなかった。その時点で、自分の中で限界を決めていた。しかし、４泊５日の旅で私は、自分の中の限界などたいしたことはない、ということに気がついた。子どもたちは自分の中で考え、私たち学生が指示を出さなくても適切な行動をし、１歩１歩１００ｋｍを目指して進んでいた。つらい山道や登り・下り坂は歩調コールなど自分自身を鼓舞しつつ班で協力して進んでいった。子どもたちは私の想像以上で、「子どもたちの完歩の手助けができるだろうか」と考えていた自分自身が恥ずかしくなった。また、私自身も１００ｋｍ完歩できるか不安であったが、最後は子どもたちと笑顔で完歩することができた。リーダーとして子どもたちの１番近くでこの旅に関わることができて本当に良かった。自分自身を含め、人の限界は自分で決められるものではないことを学んだ。

２つ目は、「私たちは様々な助けや支えの中で生かされている、ということに気がついた」ことである。３月の震災や７月の大水害があったにも関わらず、４泊５日の旅でだれ１人大きな怪我なく完歩することができたということは、団長を始め多くの方々の支えがあって初めて成り立つことである。１００ｋｍ徒歩の旅の綱領にもあるように、「様々な支えがあって生かされていることへ感謝します」という１文をあらためて気づかされた旅であり、この旅に関わったすべての人たちに感謝したい。

１００ｋｍ徒歩の旅は、旅の主人公である子どもたちが何かに気づき成長する旅であると思っていた。しかし、学生スタッフとして参加した私自身も成長することができた。１００ｋｍ徒歩の旅は「限界への挑戦」と呼ばれることもあるが、まさにその名の通りの旅であった。

学生スタッフ感想文

学校名　十日町高等学校　２年　　学生スタッフ　福島麻衣（まい）

私は、自分自身が変わるきっかけになればとこのボランティアに参加しました。私は、高校生なので子供たちをちゃんと引っ張っていけるか、また、他の学生ボランティアの人と協力できるのかと、心配なことが多々ありました。　研修には一回しか参加できず、しかも、子供たちとの顔合わせの予定だった研修も大雨のためなくなってしまい、より不安が強くなったまま出発をむかえました。

私の班は女の子の班でした。出発式で初めて会ったので、どんな子なのだろうかと、期待と不安を胸に出発しました。女の子の班というのもあり、初めはみんな歩調コールやチクサクコールも声が出ませんでした。歩くだけでも辛いのに、声を出しながら歩くのは、もっと辛いです。私でもそう思ったので、「子供たちはもっと辛いのだろうな」と思い自分なりに子供たちを励ましながら、やっとの思いで休憩所に着くと、子供たちはさっきの疲れは嘘のように、走り回っていました。その姿を見ながら、班長のりょうちゃんと、この元気がコールに出てくるように頑張ろうと話し合いました。また、3 班の子供たちは水を飲まない子が多かったので、熱中症気味になり班から後れを取ってしまう子がいました。なので、できるだけ自分も水を飲み子供たちにも水を飲んでもらえるように努力しました。

毎晩夜は、スッタフミーティングをして、その日の反省点、明日注意することを話し合いました。大学生の話を聞いていると、こんな目線で見るとこもできるんだと発見もありとても勉強になりました。

そんなこんなで、あっという間に 5 日目になり、3 班は最後の最後になって全員の声が出るようになりました。5 日間の成果が出たのだなと思いました。

解団式での発表のとき、私たちが指示をしたわけでもないのに、子供たちで話し合って、班の目標を全員で言う場面がありました。あまり人前で話すのが得意でない子が集まっていたので、どうなるのかと心配しましたが、とてもうれしかったです。

あの 4 泊 5 日の旅で子供たちとともに私も成長させてもらうことができました。

本当に 5 日間お疲れ様でした。ありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　新潟県立看護大学　３年　　学生スタッフ　　樋口清蘭（さや）

100 徒歩との出会いは、地元十日町で雪まつりのボランティアスタッフをしていた時の事でした。もともと、子どもも運動も好きなほうだったので「最近運動していないし楽しそう」と思い参加を決めました。

5 月に入り、スタッフ研修が始まりました。研修では、100 徒歩の心得にもあるように＜積極的な姿勢＞で臨む事の大切さなど、これからの人生に役立つ様々な事を教えていただきました。また、試歩や危険箇所の確認を行うことで、安全に歩けるような環境を整えていきました。こうした研修を通して、個性的な学生スタッフの人たちとも仲を深めていくことができました。

7 月も終わりに近づき、本番に向けて荷物の準備を始めていた頃、十日町は豪雨に見舞われました。上越にいた私は、地元が大変なことになっているのを親から電話で聞き、とてもショックを受けました。そして、100 徒歩を実施することはできないのではないかと思いました。しかし、団長のご尽力のおかげで実施することが決まり、本当に嬉しかったです。その代わりに、保護者参加者説明会が中止になったり、土砂崩れなどでコースが変更したりしたので不安もありながらの本番でした。

本番 5 日間はとても気温が高く、水分補給がとても大切だったので、子どもに水を飲むよう頻繁に声をかけながら歩いて行きました。しかし、夜のミーティングで水の減りの少なさを指摘され、学生スタッフで声の掛け方や頻度について話し合っていきました。

この旅は、私にとって自分自身を見つめる機会でもありました。いつも「リーダーとして自分は何ができるのだろう」と考えさせられました。私以外、リーダーは男性だったので、自信は正直あまりなかったです。でも、どんなに悩んでも行動に移さなければ何も変わらないと思い、3 日目位から、子どもに対して厳しく接してみようと思いました。その分、女にしかできない優しい声かけを心がけました。問題を自分で解決することは、生きる力だと身をもって感じました。この経験は私の人生にとって、とても大きなものになると思っています。

そして 100km 歩ききり、ゴールした時には本当に感動しました。5 日間いろんなことがあって、やっと達成できた瞬間の喜びは何にも変えられない素晴らしいものだと思います。家に帰ってクーラーを浴び、温かいお風呂に入ったときはとても幸せでした。こんな幸せな毎日を過ごせていたことに気づくこともでき、一日一日を大切に生きていこうと思いました。

最後に、子どもたちやスタッフのみなさん、そして団長にとても感謝しています。この経験と出会いは、一生忘れません。本当にありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　　上越教育大学　３年　　学生スタッフ　山崎めぐみ（まる）

私が今回初めて参加させていただき、当日はサブリーダーを務めさせていただきました。実は昨年度も参加しようと考えていたのですが、体力がなくスタッフをする自信がありませんでした。しかし、前年度参加者の話を聞き、どうしても参加したいと思い参加することを決めました。実際参加してみると思った以上にきつく、初日にして帰りたい気持ちでいっぱいでした。笑顔で子どもたちを支えようと思っていたのですが、そんな余裕もなく顔も上げられない時もありました。そんな時にいつも私を支えてくれたのは子どもたちの存在でした。子どもたちは弱音を吐きながらもひたすら熱い中歩き続けていました。私一人であればすぐに歩くのをやめていたのだと思います。子どもたちが自分の後ろにいるんだ、ゴールまで子どもたちを安全に連れて行かなくちゃという思いでひたすら歩き続けていました。そして１日目が終わり、２日目、３日目と日を重ねるにつれて、疲労は増していきましたが、それと同時に子どもたちや周りのスタッフとの距離が縮まっていくのを感じました。子どもたちと毎日のゴールを喜びあったり、お互いに励まし合ったり、食事の時は色んな話をして盛り上がりました。スタッフでもお互いに声を掛け合ったり、毎晩のミーティングでは真剣に子どもたちについてや日程について話しあいました。その中で、みんなが同じくらいこの１００徒歩に対して熱い思いを持って参加していることを感じました。この仲間たちの存在がとても心強かったです。５日間歩き通せたのは、やはり一緒に歩いた仲間や子どもたちがいたからだと思います。みんなが一緒に頑張っているから、自分も頑張ろうと思えたし、「できるんだ」と思うことができました。ゴールが近づくにつれて、私の中で子どもたちと限界に挑戦したい、この子どもたちとなら挑戦できるという思いが強まっていきました。歩調コールはなかなか大きな声が出ている子もいたのですが、まだでる！まだまだでる！！と子どもたちに声をかけながら進んでいきました。最期の遊歩道での歩調コールは今でも忘れられません。子どももスタッフも自分の全力で歩調コールを叫んでいたのがわかりました。生まれて初めて「みんなの気持ちがひとつになる瞬間」を感じた気がします。一人ではできないことでもみんなでやればできるのだと学びました。私の人生の中でかけがえのないものになったと思います。本当にこの１００徒歩に関わった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。人によってこの１００徒歩で学ぶことは様々だとは思いますが、きっとみんなの将来につながっていく経験になったのではないかなと思います。

学生スタッフ感想文

学校名　　上越教育大学　３年　　学生スタッフ　　賀原一陽（RED）

「全員の体と心の安全を守るセーフティー、リーダーの RED です。」このように、私は自己紹介をした。この自己紹介は、私にとって全員への約束でもあった。『絶対に安全に健康にサポートする。』５日間は、セーフティーとして、全員に気を配った。結果、最後まで特に大きな問題もなく、リタイアする子どももスタッフもいなかったことが嬉しい。約束を果たせたこと、全員が笑顔でゴールできたこと、全員が 100km 完歩できたこと。全てが終わった瞬間、様々な喜びの感情が私の中で溢れてきた。今までになかった経験であり、もう一度感じたい感情である。またこの５日間は、水分補給に体調管理、表情のチェックや体調不良を訴えた子どものサポートなど、今までで一番安全と健康に気を使った時間だったかもしれない。新たな世界を知ることができた、また、人の気持ちを最大限に考慮しながら歩いた５日間だったように思う。最終日、危うく私が体を崩しそうになったことは内緒だ。この５日間、本当にいい経験ができた。将来、教員を目指す私にとってかけがえのない時間を過ごし、経験ができ、仲間たちにあうことができた。本当に感謝している。ありがとう。100km 徒歩に感謝！

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学　１年　　学生スタッフ　橋口　翔太（はっしー）

一日約２０㎞もの距離を炎天下の中、子どもたちが歩くということに対して初めは不安しか感じていませんでした。体力的に大丈夫なのかとか本当に歩き抜くことができるのだろうかとか自分自身すら子どもの様子を見ながら歩くことができるのかなど心配事は絶えずに結局当日を迎えました。元気よくスタートを切った様子を見て若干心配も消え、歩いているときはきつそうでもしっかりとした足取りでみんなで懸命に歩いている姿や休憩のときなどに見た子どもたちの元気そうに駆け回る姿を見てみんななら無事に完歩できると思うことができたし、自分も最大限に子どものサポートをしたいと思いました。私はセーフティーという立場にいたので、特に印象に残っているのは遅れた子どもが頑張って自分たちの班に戻ろうとする小さくも大きな姿に頼もしさを覚えたことや追いついた子どもを歓迎してくれたみんなで完歩しようという気持ちの表れに感動したということでした。子どもの様子として学んだことは、自分が思った以上に子どもの能力は高く、考えすぎてしまって甘やかしてしまうことにつながってしまうことがあったのではないかと思ったことや子どもが意外と人の行動を見て真似をしたり影響を及ぼしているということに気を付けて行動する必要もあるのだと感じました。また、スタッフとして参加しているという自覚の足りなさに反省する部分が感じられました。子どもと仲良くして歩きやすい環境を作ってあげるということを考えて臨んだのですが、それだけだとやはり休憩や遊ぶときに注意が行き届かなくなってしまったりして危険な行為をとめられないことになってしまうこともあったので子どもとの距離をただの仲良しでなくスタッフと子どもという関係も視野に入れながら参加する心がけが必要なのだと思います。今回の第三回越後つまり１００㎞徒歩の旅に参加して感じたり学んだことっていうのは私にとってプラスになることが多かったように思います。その中で、子どもが成長できて行けたという実感があったので尚幸せに感じています。お互いに１００㎞を歩いたということでも関わりの中でも糧になっていけるようなつながりであったのならすごく嬉しいことですし、この糧を肥やしに私自身のこれからの成長につなげていきたいと思います。“自分を信じて挑戦する”“積極的に挑戦する”“できるまで挑戦する”歩き終えた今、振り返ってみるとまさに「挑戦」だった気がします。今後さらなる挑戦をして自分を伸ばし、今回のように人や人の成長とかかわっていくようなことをしていきたいと思います。

学生スタッフ感想文

学校名　新潟産業大学　２年　　学生スタッフ　村山瑞樹（ウォルト）

今回の100徒歩は僕は４日目と５日目のみの参加となりました。やはり５日間全て参加したかったことが心残りです。
短い期間の参加でしたが、今回は去年よりも密度の濃い100徒歩でした。細かい部分までしっかり内容が練られていました。学生スタッフ各々の能力も高く、充実した100徒歩だったと思います。知っている子供達も何人かいましたし、初めて会う子供達、それから学生スタッフの皆さんとも割りとすぐに打ち解けられました。元気いっぱいの子供達と素晴らしいスタッフの皆さんに出会えて本当に嬉しく思います。お世話になりました。
去年は５日間とも全て参加し、様々なことを学ばせて頂きましたが今回は途中から参加するという形でした。途中から参加したため、今後の日程やコースなどは全く分かりませんでしたが、最初から参加していた学生スタッフに詳細を聞き、内容をしっかり把握して４日目５日目に挑みました。今回の100徒歩ではこういうことを学べたのではないかと思います。また次回の100徒歩も機会がありましたら参加させて頂きたいと思います。その時はまたよろしくお願いします。ありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　　上越教育大学　３年　　学生スタッフ　大平千裕（おっち）

「第３回越後つまり 100km 徒歩の旅」参加して、今年も多くの気づき、そして、そこからの学びがあった。その中から特に印象に残った「子どもたちの底知れない力」、「仲間の知られざる姿」、そして「“親”という存在の大きさ」について書きたいと思う。

この「100km 徒歩の旅」にはもうひとつ「限界への挑戦」というテーマが掲げられている。子どもたちも、もちろんスタッフの私たちも、時には仲間と、時には自分と向き合いながら“限界への挑戦”をしていくのである。日常生活を送っていて、「限界への挑戦」など考えたこともないし、したこともない。だから、子どもたちも、私たちも始めのうちは、すぐにダウンし「歩調コール」も仲間との言葉の掛け合いもできなくなってしまう。しかし、「このままではダメだ。」と気づき出す。仲間が頑張る姿を見て、自分も負けじと声を張り上げる子ども、途中で歩けなくなっても必死で仲間の所に戻ろうと歯を食いしばって歩く子ども。そして、そんな子どもたちに、少しでも貴重な経験をさせてあげたい、「生きる力」を身につけてあげたい、ただの思い出になって欲しくないと、スタッフのみんなも、声がガラガラになるまで子どもたちに声を掛け続ける。この瞬間、私は「子どもたちの底知れない力」と「仲間の知られざる姿」を感じた。子どもだからと言って、その能力の限界を決めてはいけないな、と思った。子どもは、“できない”のではない。“やらない”のである。力が発揮できるような環境になれば、子どもたちは、頼もしい姿を見せてくれる。そんな場面を何度も何度も見ることが出来た。子どもたちを見る目も大きく変わった。

また、そんな子どもたちと本気で関わる仲間には、スタッフ研修会までとは違う一面があった。子どもたちと関わることが好きで、少しでも子どもたちの成長に関わりたいと思う仲間だからこそ、子どもたちを前にすると、良い意味で豹変する。そんな仲間と出会って、一緒に歩けて本当に幸せだな、と思った。

しかし、私たちがどんなに励ましても、心が折れてしまい、立ち直れなくなってしまう子どもたちもいた。そんな子どもたちを元気にしたのは“親”だった。親からの手紙、おまもり、そして、応援してくれている、ということだけで、再び歩き出せる子ども、4 泊 5 日を乗り越えられる子どもがたくさんいた。また、ゴールテープを切ったあと、真っ先に行く先は絶対にお家の方のところだった。口では「おうちの人に会いたい」なんて言わないが、やっぱり、子どもにとって、親の存在は大きいんだな、と感じた。子どもにとって親を超す存在はいないと感じた。それだけ大切にされている子どもたちが、親元を離れて 4 泊 5 日で 100km を歩くこの「100 徒歩」。子どもたちにとっても、家族の方にとっても、私たちにとっても大きな挑戦だったと思う。

100 徒歩に参加しても、私はなかなかすぐには変われない。でも、ちょっと力を出さなければいけないとき、なかなか力が出せないとき、私にとって大きな支えになるのがこの 100 徒歩である。これからも「出来る、出来る、必ず出来る」の精神で色々な事に挑戦していきたいと思う。100 徒歩さいこー！

学生スタッフ感想文

学校名　新潟産業大学　２年　　学生スタッフ氏名　只野さやか（たま）

今年の越後つまり 100ｋｍ徒歩の旅では、水かけや食事の準備、宿舎として使わせていただいた小学校の清掃を主に行う生活給水班を担当させていただきました。それは、去年初めての参加で 100ｋｍ完歩できなかったことへの不安も少なからずありましたが、声かけなど色々とサポートしてくれた人たちの思いも間近に感じてみたかったからです。大学の教職課程の関係で、残念ながら５日間みんなと生活を共にすることは出来ませんでしたが、最後の２日間サポートすることができて幸せでした。

個人的には、水かけ用のバケツも参加者全員分の食事も重く、運搬するのが大変だったことが印象に残っています。しかし、遠くからみんなの歩調コールが聞こえてくる度に、いつのまにか私も笑顔になっていました。３日目の夜のスタッフミーティングでも、歩調コールをする目的について触れられていましたが、班のみんなの歩調を合わせるだけではなく、周りに明るさを届ける役目も果たしているのかなと感じました。

今回は、学生スタッフの人数が一気に増えて、自らが主体となって動かなければいけない場面がより多かったように思います。実際に私が積極的に動けた回数は少なく、周りに頼ってばかりいましたが、仲間と協力することや参加者の目線に立って物事を考えることの大切さを、この越後つまり 100km 徒歩の旅は教えてくれました。来年は、もっと多くの学生を集めて、子どもたちにとっても、周りにいる学生・社会人スタッフにとっても、より心に残るものにしていきたいです。

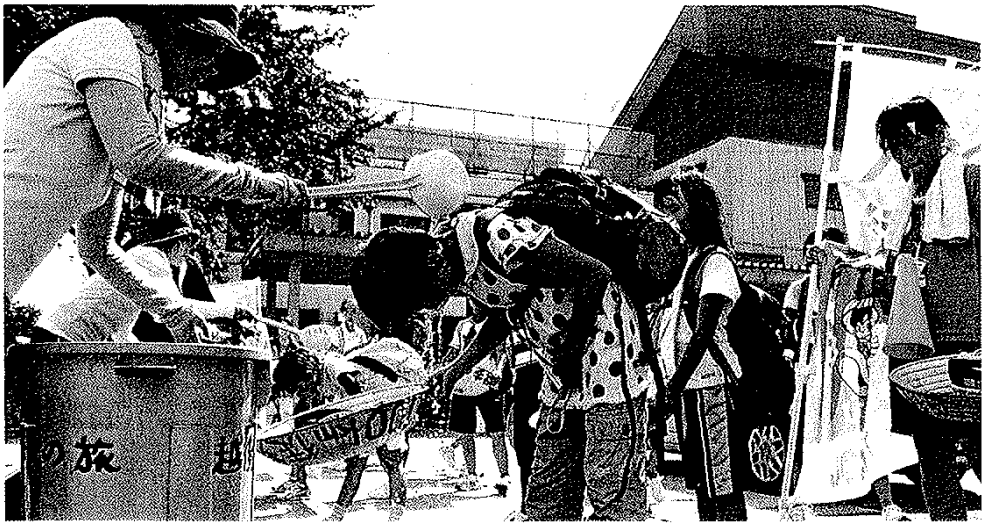
この 100km 徒歩の旅は、もしかしたら完歩することも大切なのかもしれません。ですが、それ以上に、人の温かさ、互いに相手を思いやってぬくもりを知ることがもっと大切なのだと、サポートを通じて感じました。今回学んだことを、これからも生かして頑張っていきたいと思います。そして、自分なりに精一杯の成長をして、来年もこの事業に参画したいです。

試歩をあまり出来ていないと聞いていたので、正直不安な面もありましたが、全員が無事にゴールテープをきった瞬間を見たときは、とても嬉しかったです。参加者のみなさん、保護者のみなさま、学生・社会人スタッフのみなさん、お世話になりました。本当にありがとうございました。

新潟日報

4泊5日100キロ踏破へ

十日町・津南の児童30人 信濃川沿い歩く



冷水を浴びる児童ら。体を冷まし、気分をリフレッシュした＝8日、十日町市明石町

きょうゴール 声援励み 最後の頑張り

十日町市と津南町の信濃川沿い100キロを地元の小学生が4泊5日で歩く「越後つまり100キロ徒歩の旅」が10日、同市本町6のキナーレでゴールを迎える。強烈な日差しの下、児童30人は懸命にゴールへ向けて歩みを続けている。

徒歩の旅は市民でつくる実行委員会が主催し、ことしで3回目。忍耐力や協調性など「生きる力」を身に付けることが目的で、小学校高学年が参加している。

児童は6日、そろいのかさをかぶってキナーレを出発。7日以降、信濃川上流の津南町で折り返し、ヒマワリ畑や河岸段丘を眺めながら、川西地域へ向かった。夜は各地の小学校で宿泊。10日は中条地域を経て、キナーレを目指す。

社会人や大学生などのスタッフ15人ほどが同行し、食事の手配や児童の健康状態をチェック。30分～1時間おきに水を飲んだり、冷水を浴びたりできるよう休憩ポイントも用意した。

出発から3日目の8日昼すぎ、気温はスタッフの温度計で35度に達した。疲れた様子の児童らにスタッフや沿道の市民が「声を出して行こう」と声援を送った。

8日に約20キロを歩き終えた十日町小5年の湯沢知香さん(10)は「ふくらはぎが痛くてつらかった。でもまだ大丈夫。最後まで頑張りたい」と語った。実行委の沢野崇団長は「みんなとなら、自分だけでは乗り越えられない限界を克服できると実感してほしい」と期待を込めた。

週刊 津南新聞

津南、十日町の児童30人余が菅笠姿で100㌔を歩いた（6日、正面で）

葉月の表情

地域再発見

100㌔徒歩の旅

◎…地域を歩き生きる力を育てようと、「第3回越後つまり百㌔徒歩の旅」は6日から10日に開き、津南・十日町地域の小学4年から6年の32人が参加。キナーレを発着点に津南町のひまわり広場や旧川西町のナカゴグリーンパークなど信濃川河岸段丘一帯を5日間かけ走破。宿泊は各地の小中学校舎。全員がそろいの菅笠を被り、励まし合いながら歩いた。津南から初参加の中津小5年の志賀世那君は「普段は車だから、歩くと全然イメージが違う」と地元を再発見していた。

○…全国25ヵ所で取り組まれる同旅。十日町青年会議所（JC）主催でスタート。今夏から実行委員会形式で行い、JC卒業者や地域企業なども協力。猛暑のなか医師も同行、健康チェック体制も整えた。上島友博実行委員長は「百㌔歩くのは大変だが、仲間と地元を歩くことで達成感が生まれる。今後も継続し、子どもたちの成長を助けたい」と想いを話した。

THE TOKAMATI TIMES 十日町タイムス

三度笠かぶって元気を発信

第3回越後つまり100㎞徒歩の旅

100㎞を完歩した仲間と手をつないで感激のゴール

今年で3回目を迎える「越後つまり100㎞徒歩の旅」が、「東日本応援100㎞徒歩の旅」として6日～10日の5日間、十日町市・津南町の生活圏で行われた。主催は同実行委員会（野澤崇会長）。

今年は、十日町小学校、西小学校、東小学校、下条中学校、橘小学校、水沢小学校、田沢小学校、津南小学校、中津小学校の4～6年生30人が参加、またボランティアスタッフとして県内在住の高校生、専門学校生、大学生16人が参加した。

同事業は、子ども達の「生きる力」や地域の教育力向上、地域の魅力再発見などを目的としていて、親元を離れ1日約20㎞合計100㎞を、地域の学校体育館に泊まりながら5日間かけて歩き、ひまわり広場やミオン中里、ナカゴグリーンパークなどを回り、十日町市・津南町の各地から元気を発信した。

市報 8.25 TOKAMACHI 平成23年(2011) August 第154号

とおかまち

100km完歩で“生きる力”を身に付けました

8月6日から10日(水)、越後妻有（十日町市・津南町）内を100km歩く「越後妻有100km徒歩の旅」が4泊5日の日程で開催されました。今年で3回目となる徒歩の旅に小学4～6年生の30人が参加。途中、隊から遅れる子どももいましたが、力を振り絞りながら歩き、全員が100kmを歩き抜きました。今回初めて参加した板垣里佳さん(水沢小4年)は、「家族と離れる事や、100km歩くことに心配があったけど、頑張って完歩できた。たくさんの友達ができ、楽しく過ごすことができてうれしかった」と、笑顔で話しました。

週とおかまち報

郡市内の小学生が完歩

越後つまり100km徒歩の旅

猛暑のなか菅笠かぶり

十日町市と津南町の小学生が両地域を5日間かけて歩く「第3回越後つまり100km徒歩の旅」が、6日(土)～10日(水)の4泊5日で行なわれた。

子供たちの生きる力を醸成し、健全で強く逞しく育っていってもらうことがねらい。あわせて自分たちが住んでいる地域の魅力を再発見してもらうことも目的の一つ。

第1回と2回は㈱十日町青年会議所が主催して開催してきたが、3回目の今年は「私たちの地域（まち）は私たちでつくろう、私たちの地域（まち）の子どもたちは私たちの手で育てよう」という気持ちのもと、より多くの地域の人たちから関わってもらおうと実行委員会（澤野崇会長）を組織して実施した。

十日町青年会議所は主催者ではなくなったが協力団体として参加、他に卒業者、事業所も協力した。猛暑の中の開催とあって医師も同行して熱中症などの予防や体調を崩した時に備えた。

今回は十日町市と津南町の小学校4年生～6年生まで32人が参加した。実行委員のほか高校生や専門学校生、大学生16人もサポート役で参加した。

一行は越後妻有交流館キナーレで原水爆禁止十日町市民大会に参加したあと出発。津南中等教育学校で宿泊。その後、田沢小学校、川治小学校、上野小学校と宿泊地をめざして歩きつづけ、途中何回も水かけや給水を行いながらキナーレにゴールした。

暑さのなか元気に歩き続ける子供たち

十日町新聞

100キロ徒歩の旅の報告会開催
32人の小学生が参加して100キロ完歩

十日町市と津南町の小学生が地域を5日間かけて歩く「第3回越後つまり100キロ徒歩の旅」が8月6日から10日の4泊5日で開催された。

100キロを歩くことで、子どもたちの生きる力を醸成し、健全で強く逞しく育ってもらうことが目的。これに合わせて自分たちが住んでいる地域の魅力を再発見してもらう事も狙い。

第1回、2回は㈱十日町青年会議所が主催してきたが、3回目はJC以外の協力団体や企業も参画して実行委員会を組織、澤野崇氏が団長となって実施した。

今回は小学校4年生から6年生までの32人が参加し、高校生や大学生など16人がサポーターとなって協力した。

実行委員会では11日、エコマールで「徒歩の旅思い出報告会」を開催し、暑い中を歩いた思い出をビデオで観賞し、保護者とともに完歩を喜びあった。同日は澤野団長は病気で欠席となり、実行委員長の上村友博氏が団長を代行して、「多くの協力者のお陰で、100キロを歩けたことを忘れてはならない。沿道からの応援も力になりましたね。保護者の皆さん、100キロはきっかけに過ぎません。今後も進化と継承を続けて、次代を担う人材育成に努めます」とメッセージを伝えた。

学生スタッフとして市内から参加した樋口清蘭さんは「たくさんの人の支えに感謝し、この経験を将来の仕事に生かしたい。すてきな大人になってほしい。これからも十日町を盛り上げていきたい」と挨拶。保護者代表挨拶では「新しい友達がほしい」と第1回から参加している西小6年の阿部七海さんの母親の友美さんが「3回目を歩き終え、みんなと過ごした日々は財産」と話した。

澤野団長のメッセージを伝える上村実行委員長

（順不同・敬称略）

■協力■

社団法人　十日町青年会議所

■後援■

十日町市　津南町　十日町市教育委員会　津南町教育委員会
十日町商工会議所　越後妻有交流館キナーレ　エフエムとおかまち
全国１００ｋｍ徒歩の旅推進協議会　十日町新聞社　週報とおかまち社
十日町タイムス社　津南新聞社

■賛助頂いた皆様■

焼肉ひゃら　有限会社阿部康板金工業　株式会社ベストライフ
有限会社佐野写真館　水落会計事務所　株式会社朝日堂
株式会社長谷川砂利　株式会社村熊商店　円通寺　株式会社富剛建設
有限会社エーデルワイス　有限会社マルミ電化サービス
サンタ・クリエイトシステム　株式会社共和自動車　株式会社丸山工務所
株式会社美佐伝　千原株式会社　家楽　株式会社滝沢印刷
株式会社吉田商会　庭又板金店　谷内製材株式会社　株式会社村山商会
株式会社松乃井酒造場　スリーエスシステム株式会社　プログタウン
有限会社遠田設備　有限会社きさらぎ　大村建設株式会社
角屋株式会社　丸松工具株式会社　有限会社ミヤコウドリーム
有限会社蕪金板金店　株式会社ミナミ商会　高橋昇男税理士事務所
株式会社三高土木　有限会社服部総業　株式会社小泉工業
十日町タクシー株式会社　有限会社花せん　井沢塗装　矢口ダンス
株式会社田村自動車　有限会社大米銘木店　モダン食堂ＫＩＣＨＩ
学校法人十日町女学園　株式会社恒樹園新潟　小野塚事務所
株式会社ヤナショウ　大島電気株式会社　有限会社十日町パーツ
吉澤政敏　福島徳治　井口清太郎　関口丈仁　有田継正

■お世話になった学校・施設・会社・団体■

津南中等教育学校　中津小学校　芦ケ崎小学校　津南小学校
田沢小学校　川治小学校　上野小学校　ＮＰＯ法人ネージュスポーツクラブ
新潟県厚生農業協同組合連合会中条病院　諏訪神社　十日町地域消防本部
十日町情報館　視聴覚ライブラリー　越後妻有交流館キナーレ
財団法人十日町地域地場産業振興センター　ナカゴグリーンパーク
木落集落　太子堂集落　龍ケ窪　十日町陸上競技場　神宮寺
株式会社美郷　株式会社上島　十日町カントリークラブ株式会社
津南町観光協会　有限会社大地　井川建設株式会社　株式会社ムラオ
株式会社関口商店　株式会社村熊商店　株式会社村山興業　割烹田町屋
ダイニングしみず　フレッシュランチ・ハーベスト　田順アート
セブンイレブン福田屋　セブンイレブン十日町西店　株式会社村山興業

■助成■

子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）

越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅実行委員会

〒９４９－８５２４　新潟県十日町市馬場丙１５０５　(株)上島内
ＴＥＬ：０２５－７５８－２０３３　　ＦＡＸ：０２５－７５８－２５０５
ＵＲＬ：http://echi100km.main.jp/
E-mail：info@echi100km.main.jp

子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動